

**CASBEE-広島 (2010年ver.1)**  
 (仮称)ケルティ井口

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります  
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版  
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

スコアシート	竣工段階	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>							<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>				<b>0.40</b>			<b>3.1</b>
<b>1 音環境</b>			<b>2.3</b>	0.15	<b>3.1</b>	1.00	<b>3.0</b>
<b>1.1 騒音</b>			<b>3.0</b>	0.67	<b>3.0</b>	0.40	
1 暗騒音レベル			3.0	1.00	3.0	1.00	
2 騒音対策				-		-	
<b>1.2 遮音</b>			-	-	<b>4.4</b>	0.40	
1 開口部遮音性能		T-2サツを使用している。	-	-	4.0	0.30	
2 界壁遮音性能		コンクリート壁t=270~200ちしている		-	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		ポイドスラブt=275としている。		-	5.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		ポイドスラブt=275としている。		-	5.0	0.20	
<b>1.3 吸音</b>			<b>1.0</b>	0.33	<b>1.0</b>	0.20	
<b>2 温熱環境</b>			<b>2.6</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.9</b>
<b>2.1 室温制御</b>			<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	1.00	
1 室温設定			3.0	0.63	-	-	
2 室温変動の抑制				-		-	
3 外皮性能			3.0	0.38	3.0	1.00	
4 ゾーン別制御性				-		-	
5 負荷・設備制御				-		-	
6 個別制御				-		-	
7 稼働率の調整				-		-	
8 稼働率の調整				-		-	
9 稼働率の調整				-		-	
<b>2.2 湿度制御</b>			<b>1.0</b>	0.20	-	-	
<b>2.3 空調方式</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>			<b>2.3</b>	0.25	<b>3.2</b>	1.00	<b>3.1</b>
<b>3.1 昼光利用</b>			<b>1.8</b>	0.30	<b>3.4</b>	0.50	
1 昼光率		開口図の位置大きさを検討している。	1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口				-		0.30	
3 昼光利用設備			3.0	0.40	3.0	0.20	
<b>3.2 グレア対策</b>			<b>2.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50	
1 グレア対策				-		-	
2 昼光制御			2.0	1.00	3.0	1.00	
<b>3.3 照度</b>			<b>3.0</b>	0.15	-	-	
1 照度			3.0	1.00	-	-	
2 照度対策				-		-	
<b>3.4 照明制御</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>4 空気質環境</b>			<b>3.6</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.3</b>
<b>4.1 発生源対策</b>			<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		住戸内建築建材はほぼF☆☆☆☆を使用	4.0	1.00	4.0	1.00	
2 化学汚染物質				-		-	
3 化学汚染物質				-		-	
4 化学汚染物質				-		-	
<b>4.2 換気</b>			<b>3.0</b>	0.40	<b>2.3</b>	0.38	
1 換気量			3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				-	1.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33	
4 換気設備				-		-	
<b>4.3 運用管理</b>				-		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視				-		-	
2 喫煙の制御				-		-	
<b>Q2 サービス性能</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 機能性</b>			<b>2.2</b>	0.40	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.4</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>			<b>1.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性				-		-	
2 高度情報通信設備対応		各居室に光通信等が可能な設備を設けている		-	4.0	1.00	
3 バリアフリー計画			1.0	1.00		-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>			<b>4.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観				-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				-		-	
3 内装計画		共用部は美観に考慮している	4.0	1.00	3.0	0.50	
<b>1.3 維持管理</b>				-		-	
1 維持管理に配慮した設計				-		-	
2 維持管理用機能の確保				-		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>			<b>2.7</b>	0.31		-	<b>2.7</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>			<b>3.0</b>	0.48		-	
1 耐震性			3.0	0.80		-	
2 免震・制振性能			3.0	0.20		-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>			<b>2.5</b>	0.33		-	
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.23		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.23		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			1.0	0.09		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.15		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			2.0	0.23		-	

2.4 信頼性			2.2	0.19		-	-
1	空調・換気設備		1.0	0.20		-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	-
3	電気設備		3.0	0.20		-	-
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20		-	-
5	通信・情報設備	情報設備機能の多様化を図る	3.0	0.20		-	-
3 対応性・更新性			2.8	0.29	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり					3.6	0.50	
1	階高のゆとり	ゆとりのある計画としている			4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					2.0	0.50	
3.3 設備の更新性			2.8	1.00		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性		2.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30		-	4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	広島市要綱を考慮し地域との一体性を図る	4.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	目的に合わせ利便性を高めるため各情報源を導入	4.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.40		-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20		-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化		設備関係は高効率なものを使用する	4.0	0.40		-	4.0
4 効率的運用						-	-
4.1	モニタリング					-	-
4.2	運用管理体制					-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.4	0.15		-	3.4
1.1	節水	節水用、節水機能のものとする	4.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00		-	
2	雑排水再利用システム導入の有無					-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.63		-	3.0
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	杭に高炉セメントを使用	4.0	0.20		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	磁器質タイル(グリーン購入法)、	3.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22		-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32		-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68		-	
1	消火剤		-	-		-	-
2	断熱材		3.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮		計画においてある程度の条件を満たす	3.2	0.33		-	3.2
2 地域環境への配慮			2.4	0.33		-	2.4
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25		-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50		-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.6	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		-	-		-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.33		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮			2.5	0.33		-	2.5
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	-
3	悪臭		-	-		-	-
3.2	風害、日照阻害の抑制		1.6	0.40		-	
1	風害の抑制		1.0	0.70		-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3	光害の抑制		3.7	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	照明は計画的に配置する、屋外広告はない	4.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	